

法遍寺 から大切な 皆様へ

2020年4月1日

日蓮正宗 年間方針

御命題達成の年

法遍寺・天晴寺支部活動方針

人材育成と折伏実践

年間実践テーマ

① 勤行・唱題で歓喜の実践

境涯開く御題目を
正しい姿勢で実践

② 異体同心の折伏で

広布へ前進

僧俗和合

講中一結

③ 御講と登山の推進で

人材育成

罪障消滅

一生成仏

〒488-0881

愛知県尾張旭市城山町三ツ池6075-1

(TEL:0561-54-9226)

相談無料



2020年3月8日の御報恩御講の様子



慧光山 法遍寺(えこうざん ほうへんじ)について 住職 近藤道正

法遍寺は、静岡県富士宮市にある「多宝富士大日蓮華山大石寺」を総本山とする日蓮正宗の寺院です。日蓮大聖人様の正しき信仰を人々に弘め、ここ愛知地域の全ての人々が真の幸せをつかむ為に、総本山第67世日蓮上人が開基となって、昭和57年6月18日法遍院として設立され、平成20年12月23日には改築され、法遍寺となりました。日蓮大聖人の出世の本懐である三大秘法の大御本尊に帰依(きえ)し、破邪顕正の布教活動をさせていただいております。

① 講中のみなさまへ

説法というのは実に難しいものです。ある僧侶が日蓮上人猊下に説法時の人の少なさについて嘆かれ、それに対し日蓮上人は、「説法とは衆生教化はもちろんだが、何よりも三宝に対し奉る仏恩報謝の為にさせて頂くものである。昔、日蓮上人が説法をされた折、聴聞の衆がない時には、犬や蛇がきたって聴者となり説法を聴聞したというのではないか。これを法華経でいう「遣変化人(へんげの人をつかわす)」というのだ。仏の眼を畏れる心で説法せよ」と訓戒されたのです。仏の慈悲は無限です。変化の人や畜生になってでも法を護り、人を導くのです。聴聞の立場にあっても仏恩報謝の姿勢がその先を決定させます。日々真剣に御本尊に勤行と唱題をし、自分にできる折伏をしていきましょう。私も日蓮上人の御指南を胸に刻み、非力ながら仏恩報謝の説法に努めてまいる決意です。

② 創価学会に籍を置くみなさまへ ～学会指導の変遷ぶり～

創価学会員の多くは、「学会は宗門から理不尽な破門を被った」「総本山が謗法だから学会は参詣をやめた」など、根拠のない、また繋げてみると辻褄の合わない説明の中で納得をしています。知ってほしいことは、創価学会(池田氏)は自ら破門される道を選び、そして、独自の組織拡大をめざし、日蓮正宗の教義や信条を捨てたのです。にも係わらずニセの本尊を作成し続け会員を欺いているのです。仏教哲学大辞典に創価学会は「日蓮大聖人の大仏法が、純粋に伝わっている唯一の宗教である日蓮正宗の信徒として、(中略)三大秘法の大御本尊に導入し、(中略)創価学会には、それ自体の教義はない」(第4巻223頁)と述べています。現在が創立当初の目的と信条からかけ離れ、大聖人の仏法を破壊していることを知ってください。

③ 信仰の必要を認めない人へ

宗教を否定する人の多くは、「神も仏もない、生活の拠り所は自分を信じること」と言います。つまり自分の良心とか信念とかで生きている、というものです。しかし、良心とか信念は、その社会の環境からつくり出されています。各人の生活が多様であるように、良心や信念も多種多様であり、ここには危険が潜みます。もし生活の目的自体に誤りがあれば、結果は不幸に陥るのです。日蓮大聖人は「心の師とはなるとも心を師とせざれ」と仰せです。仏法は、最高で最大なる善(心の師)となるものを示し、正しく自分を照らす心の基準を教えます。自己の生命の実体を知らない、この曖昧な自己をどう見つめるかの問題を明らかにし、頼るべき最尊の自分を築くため、ぜひ法遍寺においでください。お待ちしております。